

# 石川功一の水彩・油彩展

## 和歌に詠まれた草花たち



見わたせば 向ひの野辺の なでしこの  
散らまく惜しも 雨な降りそね

万葉集 第十卷 一九七〇番歌 作者未詳

石川功一《エゾカラナデシコ(蝦夷河原撫子)》1986年 水彩スケッチ  
Kōichi Ishikawa《Ezokawaranadeshiko》1986 Watercolor painting

## 小さな美術館 軽井沢草花館

2020 4/18 土 - 11/23 月

開館時間 10:00 ~ 17:00 入館料 500円 (中学生以上)、小学生以下無料

休館日 火曜日 但し8月は無休、5/5, 9/22, 11/3 の祝日は開館、11/24以降冬期休館

<https://kusabana.net> Tel.0267-42-0716



④ 右折後、40m先の右側

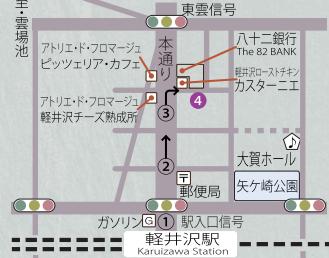
③ 八十二銀行の手前を右折

② 本通りを旧軽井沢銀座方向

① 軽井沢駅北口

軽井沢駅から約500m

駐車場5台あり(無料)



石川功一の水彩・油彩展

# 和歌に詠まれた草花たち

Kōichi Ishikawa water & oil painting exhibition. Plants written in waka

画家・石川功一が描いた軽井沢自生の草花図(水彩・油彩)の中から和歌に詠まれた植物を紹介する企画展です。

スミレ、アカネ、フジ、ワスレグサ、ハギ、ナデシコ、クズ、カタクリなどを含む40数点の作品を和歌と共に紹介します。

和歌は、5世紀から8世紀にかけて詠まれたと言われる、わが国最古の歌集「万葉集」の歌を中心を選んでいます。古き日本の歌と共に、その時代に咲いていた草花たちの作品をお楽しみ下さい。



タチツボスミレ 1986 水彩スケッチ

春の野にすみれ摘みにと  
野をなつかしみ一夜寝にける  
万葉集 第八卷 一四二四番歌  
山部赤人



ヤブカンゾウ(わすれぐさ) 1990 キャンバス油彩 12号

忘れ草  
我が紐に付く  
故にし里を  
忘れむがため  
万葉集 第三卷 三四四番歌  
大伴旅人



ヤマハギ 1990 水彩スケッチ

我がやどの  
萩の下葉は  
いまだ吹かねば  
かくそ黄変てる  
万葉集 第八卷 一六二八番歌  
大伴家持

## 小さな美術館 軽井沢草花館(かるいざわくさばなかん)

画家・石川功一が描き続けた軽井沢自生の草花図(水彩スケッチと油彩画)を展示する小さな個人美術館。

石川功一の草花油彩画百数十点と水彩スケッチ(約950種、3,000余枚)をはじめ、人物デッサン、人物、風景画を所有し、草花図を中心とした様々な企画展を開催している。

## 軽井沢に自生する草花を愛した石川功一の経歴と活動

1937年(昭和12年)三重県伊賀市阿保(旧・名賀郡青山町)で開業医の二男として出生。20才の時に大志をいただき東京に出奔、マンガ家となる。その後、画家への道をめざしデッサンに明け暮れる。30才の頃より描きはじめたドローイング「人間戯画」が銀座の画廊に認められ、援助を受けることになる。以降、人物画を中心に画家としての活動を続ける。

1981年(44才)、個展のため軽井沢を訪れたことが縁で草花と出会い、草花画が本来目指すべき道だと悟り、草花のスケッチと油彩画制作に新しい境地を開いた。草花本来の姿を描き取るために、スケッチは自ら軽井沢の野山を駆け巡り、自生している状態を描き続けた。油彩画は背景の色を何層にも重ねる独自の画法で、日本画のような繊細な画風を生み出した。



近年開発の中で自生地が  
狭められ、消えゆく草花が  
増える中、  
「軽井沢の自然に息づく  
草花の永遠の命を残す」  
をテーマに草花画の制作  
を続けた。

2007年7月永眠(満70才)

